



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第245回演奏会 《芥川也寸志 没後30年》

The New Symphony Orchestra – 245th Concert
30th Death Anniversary of Akutagawa Yasushi

指揮 湯浅 卓雄

YUASA Takuo, conductor

芥川也寸志 オーケストラのためのラプソディ

AKUTAGAWA Yasushi (1925-1989): Rapsodia per Orchestra, 1971

バルトーク 舞踏組曲

BARTÓK Béla (1881-1945): Táncszvit (Dance Suite), Sz.77, 1923

シベリウス 交響曲第2番ニ長調

Jean SIBELIUS (1865-1957): Symphony No. 2 in D major, Op. 43, 1901

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2019年4月29日 (月祝) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Monday, April 29, 2019, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,500 B席: ¥1,500 (全席指定)

88 ペアチケット (お二人様で合計 88 歳以上のお客様は合計金額から 1,000 円を割引させていただきます。下記コンサートイメージのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイメージ 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み: チケットぴあ: 0570(02)9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス: 0570(010)296 *10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www/geigeki/i/t/> *0570 で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP 電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

芥川也寸志没後30年

新響の音楽監督であった芥川也寸志が亡くなって今年で30年になります。芥川也寸志は1925年に文豪芥川龍之介の息子として生まれ、東京音楽学校（現東京藝術大学）作曲科に進み作曲家として魅力的な作品を残す一方、指揮者や音楽番組の司会者などさまざまな音楽活動を通して音楽を広め、日本の戦後の文化の発展に大きく貢献しました。今回の演奏会では芥川作品の中から、後期の代表作の一つである「オーケストラのためのラブソディ」を演奏します。

芥川の初期の作品には「管絃楽のための音楽」「交響三章」といった洗練された旋律と軽快なリズムの曲があり、その後「エローラ交響曲」のような前衛的な作風を経て、1971年に作曲されたのが「オーケストラのためのラブソディ」です。ラブソディとは自由な形式で民族的・叙事的な内容を表現した曲のことです。ほら貝のようなホルンの咆哮、日本の横笛を思わせるフルート、伝統的な5音階による旋律が散りばめられ、短いパターンを何度も繰り返すオスティナートで躍動的に終わります。芥川作品の中でも特に日本的な作品かもしれません。

バルトーク 舞踏組曲

いっしょに演奏する曲には、民族的な作曲家であるバルトークとシベリウスの作品を選びました。

バルトークはハンガリーの作曲家で、「中国の不思議な役人」「管絃楽のための協奏曲」など国際的に活躍しましたが、民族音楽の研究者でもあり、ハンガリー国内の民謡収集だけでなくルーマニアやスロヴァキアなども調査し、彼の作品にも反映されました。

「舞踏組曲」はブダペスト市50周年記念音楽祭のために1923年に作曲され、ハンガリー風の旋律以外にルーマニア風、アラブ風などの旋律による5つの舞曲と終曲からなります。ハンガリーと周辺国との連帯という意味を込めて作曲したということです。

シベリウス 交響曲第2番

シベリウスはフィンランドの国民的作曲家です。シベリウスの作品の中でもっとも人気があるのが今回演奏する交響曲第2番といってもよいでしょう。当時のフィンランドはロシアの統治下にあり、貧困に苦しみロシア化政策により自律性も危ぶまれる状態の中で、愛国独立運動が盛り上がっていました。シベリウスは第2番を作曲した1901年に、助言と資金援助を得てイタリアの地中海に臨む暖かなラップロという都市に旅行し、途中ローマにも滞在してオペラや教会音楽を見聞きしたことが、この曲に大きな影響を与えています。

ドラマティックでカンタービレながらフィンランド語的な響きで、そして最後には勇壮なメロディが繰り返されて高揚していきます。その光はきっと当時のフィンランドの人々の愛国心に届いたことなのでしょう。

どうぞお楽しみに！(H.O.)

今後の演奏会予定

<第246回演奏会>

2019年7月15日(月祝)14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎 彦太郎

曲目 ベルリオーズ/劇的交響曲「ロメオとジュリエット」、プロコフィエフ/バレエ音楽「ロメオとジュリエット」、バーンスタイン/「ウェストサイドストーリー」よりシンフォニックダンス

<第247回演奏会>

2019年10月13日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 寺岡 清高

曲目 ドヴォルザーク/連作交響詩「水の精」、「真昼の魔女」、「金の紡ぎ車」、「野鳩」、「英雄の歌」

<第248回演奏会>

2020年1月19日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、シヨスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979~90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ~良いお席を安く~

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。3ヶ月~1歳2,560円、2歳~6歳児2,160円。お申込み・お問合せ:HITOWAキャリアサポート株式会社わらべうた電話0120-415-306(平日9:00~17:00、土日祝日休み)